

## 1. 9月

9月の天気は夏模様  
ベランダのシャツを揺らすつむじ風  
君はそこで何をしているの  
思い出せないんだ

9月も過ぎ去り僕達は  
離れたことに気付かないでいる  
しかめ面はもう見飽きたんだ  
君は今日も俯いてるままなのかい

晴れた空の向こうで  
君は立ち尽くしていたけど  
何も言わずに黙り込めば  
今日は何月だ

晴れた空の向こう側で  
君は何をしているのか  
夏の日差し思い出せば  
僕は溶けてしまいそうだ

## 2. ABC

あいつ何時からどうして何故か  
僕も忘れた振りして黙る  
ひとつ季節が過ぎてく度に  
街の匂いも変わり始める

あいつ何時からどうして何故か  
僕も忘れた振りして黙る  
ひとつ季節が過ぎてく頃に  
君の匂いをひとつ忘れる

途切れた言葉を紡いで行くから  
紙切れひとつにしたためておくよ  
君が小脇に抱えた本の隙間から  
こぼれる文字がひとつ

透明なあの娘は見上げる  
街の真ん中で一人ほら  
明かりがひとつ消えた頃  
僕を思い出すかな

あいつ何時からどうして何故か  
僕も忘れた振りして黙る  
ひとつ季節が過ぎてく度に  
君の匂いを思い出すんだ

透明なあの娘は見上げる  
街の真ん中で一人ほら  
季節の変わり目に気付いて  
紙切れに詩を書き連ねる  
透明なあの娘は走り出す  
僕は追いつけないな

### 3. 志賀島カーブ

晴れた海で今泳ぐ  
ふと見上げて振り返る  
通り過ぎる錆びたバス  
濡れた瞳に映り込む

覗きこんだレンズの中  
ぼやけたまま止まる時  
冷たい風に身をまかせ  
澄んだ瞳に恋をする

透明さ何処を見渡しても  
遙かな風の中  
一人歩き出した